

### 多方面からの寄附により 様々なご支援をいただいています

本学附属病院は県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、国内で新型コロナウイルス感染症の拡がり問題になってきた初期より現在に至るまで、県内における感染者治療や対応体制の構築に主導的役割を果たしてきました。その間、医療資材の不足や、世界各地でおこなわれている医療従事者への感謝と支援の活動などが広く報道されたこと、実際に本院でも一部の医療資材の供給に遅れが生じるなどがあり、県内外より様々な物資のご支援をいただいております。

本年2月7日発行号の本紙 Vol.165で、中国武漢大学への医療資材の提供についてお知らせいたしました。その後、武漢における感染拡大が下火となり、都市封鎖も解除されたこと

から、支援への返礼という形で武漢大学より使い捨ての不織布マスク計4,840枚を寄附いただきました。そのほか、県内企業、高等学校などからも不織布マスク、サージカルマスク、フェイスシールド、防護服など幅広い医療資材の寄附をいただき、不織布マスクだけでも3万枚を超える数になっています。中には、県内出身の方が経営する東京の企業より、本院に対してマスク寄贈のご連絡をいただいた例もありました。

また、医療資材に留まらず、飲食店の閉店が続いた期間中、医療従事者が食事にも苦勞をしているのではないかと、ご自身の店は休業しているにもかかわらず、定期的にお弁当を差し入れていただいた企業もございました。数多くのご支援に対し、鈴木弘行

病院長は「多くの皆様からの温かいご支援に感謝します。マスクは医療従事者だけでなく、今後院内実習が始まる学生たちにも必要な資材だけに、大変ありがたく、大切に使用させていただきます。感染症への対応が長期に及ぶにつれ、医療スタッフの精神的な負担も大きくなっている中、医療資材に留まらない皆様からいただくご厚情は、医療スタッフにとって嬉しく、大変勇気づけられます。」とコメントしました。

これまでに寄附を通してご支援をいただいた皆様のお名前は、ホームページの新型コロナウイルス感染症対応特設サイトに、対応本部長でもある竹之下理事長のお礼の言葉とともに掲載しています。本学教職員の皆様は、ぜひ一度お目通しください。

武漢大学から届いた支援物資



看護師さんから大好評だったお弁当  
左 摺上亭大鳥様  
上 石林（シーリン）様 ※2段のお弁当

### 福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策（5月27日改定）を受けた 本学の対応・取組 について

令和2年5月25日に政府は、新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を全ての都道府県において解除しました。

また、政府の決定を受け、福島県も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を令和2年5月27日付けで改定しました。新型コロナウイルス感染症との闘いは新たなステージに入ったと言えます。しかしながら、この闘いは、長期戦となることが見込まれます。緊急

事態宣言は解除されましたが、決して安全が宣言された訳ではなく、今後、再び感染が拡大する可能性も十分にあり、我々は対策を取り続ける必要があります。まずは、「3つの密」を避けること、マスクの着用や、手洗いなどの手指衛生、人と人との距離の確保といった基本的な感染対策を徹底する「新しい生活様式」の定着に努めていただくようお願いいたします。そして、今般改定された福島県新型コ

ロウイルス感染拡大防止対策を受け、本学では、6月1日から6月18日（※政府、県が「新しい生活様式」を社会経済全体に定着させるための移行期間の第1段階として示した日付）までの間、下記の対応・取組を進めることとします。全員の教職員、学生においては、趣旨を十分に理解した上で、改めて、本学の使命・役割を自覚し、感染拡大防止対策の徹底をお願いします。

#### 記

- 1 県をまたいだ移動等については、5月25日に緊急事態宣言が解除された5つの都道府県との不要・不急の往来はできるだけ控えること。やむを得ず移動等を行う場合には、所属長（学生は教育研修支援課）へ事前に報告すること。
- 2 時差出勤、在宅勤務等を活用し、職員同士が接触する機会を可能な限り低減するよう努めること。
- 3 本学が主催するイベントや集会等は、適切な感染防止策を講じた上で、屋内であれば100人以下、かつ収容定員の半分以下の人数、屋外であれば、200人以下、かつ人と人との距離を十分に確保すること。（できるだけ2m以上）
- 4 各所属における学内での会議や委員会等は、職員同士の接触を低減する観点から、書面やメール等による開催が望ましいが、適切な感染防止策を講じた上で、上記3

- による開催も認めることとする。
- 5 学生の学内立入等については、「教育・研究に係る新型コロナウイルス感染症対策のレベル分類」により対応すること。
- 6 健康ダイアリーにより毎日の健康観察を行うこととし、万が一、感染が疑われる場合には、所属長及び帰国者・接触者相談センターに連絡するなど適切に対応すること。
- 7 これまでクラスターが発生している業種の施設、「3つの密」のある場所等への外出は、自粛すること。

令和2年5月29日  
福島県立医科大学  
新型コロナウイルス感染症対策本部  
本部長 竹之下 誠一

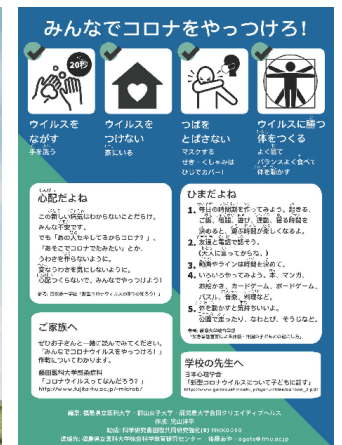
### 実施可能な取り組みからスタート

本学総合科学教育研究センターの後藤あや教授は、2019年10月より、科学研究費国際共同研究強化（B）として採択された児童参加型健康教育事業を推進しています。郡山女子大学、鹿児島大学、英国ランカスター大学と連携した研究で、もともとは小学校を訪問し、児童たちとディスカッションや料理教室、演劇などを通じて健康意識の向上を図るものでした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、小学校が休校となったことから、予定通りの活動が出来なくなり、オンラインや印刷物によって配布可能な健康啓発資料の制作をスタートさせました。

第1弾は、後藤教授と鹿児島大学、ランカスター大学が協力し、外出自粛を強いられている子どもたちに一般的な感染症予防の方法と、イギリスでの自宅での過ごし方を紹介したメッセージシートを制作。伊達市や福島市、桑折町の学校等に送信しました。その後

も参加大学が連携し、第2弾、第3弾を制作、配信しています。その結果、実際に学校に出向いての健康教室の開催依頼も寄せられるようになり、早く学校に出掛けられる環境が整うことをメンバー同心待ちにしています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、教育研究活動も広範にわたり多くの制約が生じておりますが、できることは何か手探りをしながら進めています。



福島市、伊達市、桑折町の小学校等に配布された健康啓発シート



第一生命グループ3社[第一生命保険(株)様、第一フロンティア生命保険(株)様、ネオファースト生命保険(株)様]からマスクより不織布マスク4,500枚が寄贈されました。

